

しんぐう すすむ
新宮 晋 の 絵本の世界
講演録



令和3年（2021年）2月4日（木）14:00～16:00

千里文化センター多目的スペース

主催：豊中子ども文庫連絡会・豊中市千里文化センター「コラボ」

協力：豊中市立図書館

<司会>

皆様こんにちは。

本日は豊子連講座「新宮晋の絵本の世界」にお越しいただきありがとうございます。ご挨拶をさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます豊中子ども文庫連絡会の天瀬と申します。よろしくお願いいたします。

豊中子ども文庫連絡会は、「豊子連」と略して呼ばれています。市内の子ども文庫が集まって豊中の子どもたちのために読書の喜びをと活動している団体です。

今回の講座は、千里文化センターコラボと共催で、図書館にもご協力をいただき準備を進めてまいりました。年明けに受付を開始して2週間足らずで申し込みを完了。皆様の期待の大きさを実感しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、講座の開催を悩みましたが講師の新宮さんが「皆様が楽しみにしてくださっているのだから何とか実現させましょう」と言ってくださり、その言葉に勇気をいただいて今日を迎えることができました。

換気のため窓を開いております。ご理解ください。

新宮晋さんのご紹介をさせていただきます。世界的にご活躍されている造形作家であり絵本作家でもあります。

豊中市の生まれで、東京芸術大学を卒業後、ローマ国立美術学校で学ばれ、風や水など自然エネルギーで動く立体作品を数多く制作。日本や世界各地で展示されています。豊中市内にもたくさんあり野畑図書館の前の「白い雲」や豊中高校「風と光」などが展示されています。

『いちご』『じんべえざめ』など絵本もたくさん出版されています。

地球上の6箇所の自然風景の中に作品を設置して、各地の人々と交流を図る「ウインドキャラバン」を企画開催され、その活動により第43回毎日芸術賞特別賞を受賞されました。2002年に紫綬褒章、2010年に旭日小綬章を受賞されています。

2014年、兵庫県立有馬富士公園内に作品を常設する「新宮晋 風のミュージアム」をオープン。野外パフォーマンスも行っておられます。

今日は、その美しさと科学的な視点で子どもたちを魅了する新宮さんの絵本の世界についてや、動く彫刻、また制作中の芸術文化施設「地球アトリエ」について語っていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

<新宮晋>

はじめまして、新宮晋です。皆様とお目にかかれるのを楽しみにしてまいりました。

豊中市の岡町に生まれ、大学に行くまで豊中にいました。イタリアから帰った頃に千里では万博が開かれ、革命的に変わった時代。新幹線が開通し、東京五輪があり、ローマでイタリア人から新幹線の話聞いて、「東京まで3時間で行けるはずがない」と。その頃は海外に出るのも難しい時代でした。東京でイタリア語を一生懸命に、図書館などできるだけお金をかけずに勉強。日本に帰ってきた頃に大阪万博があった。その頃の日本は、屋外彫刻はほとんど無かった。日本の美術界はどうなっているのか分からないまま東京の日比谷公園に行って、ここは東京の真ん中だからやるならここだと展覧会をやりました。花屋さんのあたりに作品を並べた。1週間開催したら、びっくりしたことに有名な建築家や美術家がぞろぞろと来られた。おかげさまで、大阪万博があったから作家デビューできたのかなと思いました。

美術界に足を踏み入れることなく、絵本界も知りませんでした。東京芸大で油絵を描いていましたが、平面に面白いかたちが出てくるのに閉じ込めておくのはもったいないじゃないかと思ひまして、面白いかたちだけカットアウトして表そうと。イタリアで免許がいらぬ溶接機を買った。

絵を描かなきゃいけないという拘束感というか。(そこから)何をしてもいいんだ。作りたいように、好きなように、やりたいようにやればいいんだと。

溶接して作品を作り、ドンゴロス(コーヒー袋)を縫って被せ、膠(にかわ)を炊いたもので固めた。こんな風に作品を作る、夜中に針仕事をして膠を炊く作家は世界中で僕しかいないと強引に思い込んで、それをある種の自信に変えてやってきた83年間です。

急激に変わる時代の移り変わりを目撃者のように、ずっと見てきたように思います。今は世界中に新型コロナが蔓延し恐ろしい時代になっている。新型コロナは、人類に与えられた試練だと思います。起こるべくして起こったのかなと。そんな中でも人間は希望を持って先に進んでいく。

絵本も書いています。いろんなものを作っています。作品を映像でご覧いただきたいと思います。

(参照動画: <https://www.youtube.com/watch?v=RCP3OoMefw>)

・関西空港「はてしない空」

イタリアの建築家レンゾ・ピアノが関空のコンペに合格し来日。僕を知っていて会いに来てくれて話ができました。

・「雪の翼」

最近の作品。ウルグアイのコレクターから連絡があり「作品が欲しい」と。遠いので作りたくないと思っていた（笑）。会ってみると面白い方で、今では親友です。

- 「光のさざ波」
私のアトリエの裏にある作品。池の上に浮かびながら風を受けている。
- 「波の翼」
広島県生口島。引き潮の時には岸から歩いて行ける。ビエンナーレで選ばれて、「島のどこでもいいから」と。探しまわっても見つからず帰り際に振り返ると、いい感じの岩場があった。
- 「水の木」
今、住んでいる兵庫県三田市にある。ホースから水を出す時のように、その反作用で動く。
- 「宇宙に捧ぐ」（エルメス銀座の本社ビル）
これもレンゾ・ピアノの建物。彼と私と、当時のエルメスの会長3人のコラボレーション。
- 「コロンブスの風」
イタリアのジェノバ。23歳（1960年）でイタリアに初めて着いた港。神戸から船で1ヶ月かかった。
- 「遠い空」（メルセデスベンツの社屋）
ニューヨークのマンハッタン。
- 「風のフーガ」
南フランス。個人コレクター
- 「水の惑星」
愛知県半田市のミツカンミュージアム。お酢の博物館。お酢がどのようにして作られるのかを勉強しながら作成。
- 「ニアルコス財団文化センター」
ギリシャのアテネ。
- 「叙事詩」
国立オペラハウスのロビー。劇場があり図書館がある大きな文化施設。

- ・「宇宙」
オペラ劇場に入ると彫刻が動いている。舞台が始まる時には、ゆっくりと上がってゆく。
- ・「神話」
アゴラという広場を挟んで、ギリシャの国立図書館がある。学問と芸術が一体となった場所に 3 点の室内彫刻を作った。
- ・「星の対話」
三田市。
- ・「星の海」
兵庫県立美術館。
- ・「オーロラ III オーロラ IV」
兵庫県立美術館。

私は、屋外作品、強風・台風・地震でも大丈夫なものや屋内の超軽量作品、大きいものでも指 2 本で持てるものと、何トンという世界、両方をやっている。今はニューヨークに作品を作っています。思った通りじゃなくて、ちょっとひねらないと意味が無いのではと思っています。

私の絵本は世界中で翻訳されていますが、中国で出版してくださっているところがビデオを作ってくれと言われて作ったものです。

<映像（約 30 分）>

「鉄や木といった材料よりも重要なのは、風であり光。造形作家ですが本を書いたりいろいろしています。お伝えしたいのは、地球という星がどれだけ素晴らしい星か。地球は、宇宙のなかでもとびっきり変わったユニークな星だと思います。他の星には行ったことはありませんが。この星に私たちが人間として生まれたことも奇跡だと思います。人間として生まれたからこそ、こうしてみなさんとお話ができる。嬉しいことです。

子どもの頃から絵が好きで、絵描きになろうと東京芸大へ行き卒業後、イタリアに渡りました。イタリアでは行くのも大変なところの田舎の教会にすごい絵があったりする。お寺の番をしているおばさんが鍵を開けて見せてくれた。その光がその画家が見たのと同じ光なんだなと感動しながら見た。その頃から額に入れ

て壁にかけられる絵に疑問を持っていた。アートというのは、その場所に作られるもの。環境と一体となってアートができる。

真面目に絵を描いて卒業後、描いている絵のなかに抽象的なかたちができる。おもしろいかたちを、なぜ平面の中に閉じ込めなければいけないのかと。切り取ろうと考えて、半立体になり、立体になり。

ボリュームのわりに軽い立体。撮影しようとして作品を外に出し、木に吊るしたら風で動いて止まってくれない。それを見ているうちに、動くことに適したかたち、風に適したかたちもあるんじゃないかと。どんどん動く世界に入り、現在に至っています。難しいところに来たなと思うが、現代のテクノロジー、構造計算、新しい材料のなかでやり続けています。

2012年、パリのコンコルド広場からルーブルにつながる公園にある噴水に「光のシンフォニエッタ」という作品を展示しました。浮かぶ作品を2週間展示。ルクセンブルク美術館のキュレーターが見てくれて「うちでも展示したい」と。2018年、ルクセンブルク美術館で展覧会をしました。ガラスのピラミッドのような美術館の中に、噴水で動く彫刻作品を作り好評でした。

ダヴィンチの没後500年だった2019年、シャンボール城でダヴィンチが実現できなかった「ユートピア計画」展が企画されました。ダヴィンチと私は、見えない空気や引力、水の流れといったものにたいする好奇心が共通していると言われました。ダヴィンチとコラボレーションするような感じでやろうと、引き受けました。

ここ（新宮氏のアトリエ）は私が描いたり作ったりして過ごしている場所。20分の1模型の中には実現したものと、できなかったものが。

絵本を書くきっかけは、1970年代にアメリカの彫刻家イサム・ノグチと親しくなり、大盛りのイチゴを出された。調子に乗って「イチゴのことは何でも知っています」と言うことからかわれたので、書いてみよう。

本当に絵を描きたいと思った時に絵本を書きます。長年かけて18冊ほどしか出ていません。出したい時に出すのでいつも突然なんです、おかげさまで中国でも出版していただいている。

- ・（絵本『くも』文化出版局）

トレーシングペーパーを使い前のページが写る装丁。時間はぶつんと切れるものじゃない。過去も未来も現在につながるような。小さな虫（オニグモ）が一晚ですごいドラマを展開して、朝になると巣をたたんで何もなくなる。

- ・（絵本『じんべえざめ』文化出版局）

「人間が海の表面だと思っているものを魚たちは空気の天井と違って過ごしているのかもしれない」の書き出し。同じ事象でも物の見方によって変わるということを描きたくて、人間の知らない海の中の世界を絵本にした。

各作品でモチベーションが違いますが最近、凝っているものは飛び出す絵本。

- ・（『旅する風』BL出版）

風がいろんなものに出くわしながら旅をします。

- ・（『サンダリーノ』BL出版）

三田市を有名にしようとしたキャラクターです。「サンダリーノ」は雷に乗って落ちてきて、地球でいろんな冒険をします。

「風のミュージアム」の人と作品が溶け合う感じが良いなと思っています。彫刻群は台に載っていないしフェンスで囲われていない。じかに接することができる。彫刻が生えているような状況を作りたかった。春と秋にジャズフェスや薪能など、空間の面白さを利用したことをしています。

初めてこの場所に来た時にこの土地を気に入って、ここなら僕の作品が生きるんじゃないかと思って。同じ風を受けても、それぞれ違う動きをすることで面白いのではと思います。35年前から現在までそれぞれの作品で考え方は違いますが、それは風の歴史のようなものだ。池の中央にステージを作ったり自然の環境のなかで、変わりやすい時間のなかで劇場ではない楽しみ方ができるのがこの場所。

その来た方にいっそうのおもてなしを…と計画されているのが「地球アトリエ」。今までにない文化芸術施設。地球の未来を考える教育施設でもあります。世界中の学者が集まったり、国際交流も。滞在したり。地元の教育機関に還元することも考えています。

シアターは開放的。都会の建物は外部と遮断されていますが、ここは自然に溶け込んだ建物にしたい。呼吸する建物と呼んでいます。遮断されず内と外が常につながっている。風を受けて部屋の中のもの動くといった、いろんな仕掛けもあります。アートセンターは、アクティブなミュージアム。展示だけでなくワークショップなどが行われる。「地球アトリエ」は誰かがいつも何かを進行している。アトリエを公開することで、ものづくりの楽しさや現場を共有する。作ることの楽しさを。見せることを仕事にしなきゃいけないというプレッシャーはありますが。僕個人の夢が実現していくにつれ、責任も感じています。絶対に成功させないといけない。コロナ禍で世界中が未来へのイメージを持てなくなっていますが、「地球アトリエ」が灯台となるような場所になってほしい。時代の問題に敏感に反応しながら、先を予告し導いていくような施設にしたいと思っています。

今まで作品を作ってきましたが、「地球アトリエ」はみなさんへのプレゼントにしたい。」

長々とお見せして、すみません。
中国は子どもの教育に熱心ですね。エリートを育てようとしている。日本は心配。しっかりしないと危ないんじゃないかな。

「地球アトリエ」この施設には、今まで培ったものを注ぎ込もうと思っています。ぜひ応援してください。

私の残り時間を考えると、駄作を作る時間は無い。これから作るものは傑作ではないといけない。時間を無駄にしたくない。創っていれば良いというアーティストの傲慢さみたいな時代もあったが今は、作っている物を通して十分伝えきれないことを、舞台、絵本…あらゆる手を尽くして伝えようとやってきた。本当は私ができないものを残したい。やりたかったけどできなかったものを作りたい。

パフォーマンスの映像を見ていただきます。

<映像（約 15 分）>

「風のミュージアム」は、兵庫県立有馬富士公園にあります。
自分の彫刻の絵をハサミで切って公園の写真に貼り付けて県知事に見せる機会があった。すると「これ、いただけますか？」と。

自然を味わいながら能などを見ることができたらと、いろんな方にご協力いただきました。チャレンジなことをやっていただいた。皆さん人間国宝。（池の上での薪能の映像）

風ミュージアム・オーケスの方々と、芝生の上でダンスパーティ
絵本『いちご』が大好きなギタリストと、ミュージカルを試みよう
と。（「いちごエクスプレス」の舞台映像・『風の音楽会』の舞台映像）



風のジャズ Vol. 2 / 2016年9月24日



ご清聴ありがとうございました。何かご質問がございましたら、どうぞ。

<司会>

ありがとうございました。それでは、お聞きしたいことがあればどうぞ。

<質問>

- ・大きな作品も自ら制作？それとも外注？
- ・風の動きは計算通り？それとも予想外？
- ・大学卒業後はどうやって生計を？

<新宮晋>

水や空気を食べて生きてきました。（笑）

多くの場合は、作りたいと思うものができますが私の場合はそれができないことが多い。作ってもらう人を探すことも、作品の一部かなと思います。できないことを何とか作ろうとする時には、やはり手伝いがいます。よくぞ今までやってこれたなど、しみじみ思います。幸運なんでしょうね。奇跡みたいに、いろいろな人に助けてもらったから今がある。できたものを見てびっくりします。「よくできたな」と。

最後の最後まで計算できていたら、たぶん作りません。何が起ころうというところが楽しみです。いつも次ががんばらなきゃと思ってきました。

<質問>

- ・先生の作品は静かですが、あえて音の出ない作品を？

<新宮晋>

動くもので音がしないのは不思議ですね。回転時に音がすると危険なので、メンテナンスは必要。動きによって音が出る作品もあります。楽器や谷間にロープを張って風の音を出したり、そんなことにも興味があります。やりたいことが、いっぱいあります。

<質問>

- ・昭和30年代に影響を受けたことはどんなことでしょうか？

<新宮晋>

イタリアで貧しい生活をしながらも次々と湧き出るアイデアを表現する時に知り合った方が、大阪造船所の社長さん。美術に詳しい方。手作りど工業化のどちらかだと。お金が無いので手作りになっていたのを「大阪造船所で援助しましよ

う」と。大阪に帰ったら万博が開かれる直前でした。大正区の造船所にアトリエを作ってもらって、初めて人に手伝ってもらうことを。設計図を書いたことが無かった。作ってもらうためには設計図を書かないといけない。自分で作るのと、人に作ってもらうのは違うんだなど、私にとっては産業革命。

屋外に作る時は、構造計算をしないとイケない。溶接も必要。作りたいものを全部、自分でやっていたら大変だなど。できるだけ人に頼むように。人に頼むのも技術。人をお願いするにはちゃんと頼まないといけない。相手を理解し信用しながらも疑ってやらないといけない。

絵本は最初から最後まで1人でできる。出版は別ですが。ある意味ではそこで発散しているのかもしれない。

<質問>

・絵本『太陽といっしょ』は、子供時代の思い出ですか？

<新宮晋>

そんなに良い自転車には乗っていませんでしたが。（笑）

<司会>

『太陽といっしょ』をご紹介します。少年たちが自転車に乗って冒険。ひとり残されてドキドキしながら帰っていくというお話。

<新宮晋>

フランスや日本で評判が良いようです。この年齢になったら、思い出でいっぱいです。

<質問>

・「地球アトリエ」の完成はいつごろでしょうか？

<新宮晋>

予定ですが、2024年春にオープンします。まだ先のようなのですが、オープン後に何をすることも検討しています。忙しいです。早く帰らなきゃ。（笑）

<質問>

・絵本の言葉が良いなと思っています。絵が先なのか、言葉が先なのか？

<新宮晋>

（サンダリーノの人形紹介）

サンダリーノは何万光年も遠くの星から地球にあこがれていた宇宙の生き物です。地球の8歳の子供と冒険します。地球を体験していく。ものの見方の違いに気づく。地球のすばらしさに自ら気付いていない人間のことを気に入らないカエルも登場。『サンダリーノ』は続いていく。2はクリスマスごろに出版の予定だったが遅れている。

コロナ禍のおかげで、『サンダリーノ』3を描いています。
サンダリーノのお話は、ポップアップ（飛び出す絵本）と小説。小説は8歳の女の子が書いたように。8歳の女の子になって楽しく書いています。謎のおばあちゃんが出てきたり。最後は宇宙征服？(笑)
ぜひ、三田に来てください。

<司会>

ありがとうございました。

「風のミュージアム」は本当に楽しいところです。季節がいい時にぜひ行ってみてください。

今日は本当にありがとうございました。

新宮晋さんの芸術活動や作品、「風のミュージアム」の様子などは、以下のサイトで見ることができます。

<http://susumushingu.com>

<https://www.facebook.com/shinguatelier.SusumuShingu/>

<http://windmuseum.jp>

<https://facebook.com/windmuseum>

YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCcpngcNHoRNSyfxN190JSZQ?view_as=subscriber

地球アトリエ PR 動画 4 分版

<https://youtu.be/5KepBMo3KR0>

ATELIER EARTH PR Video 4 Minutes Ver.

<https://youtu.be/gNZilzHDO-0>

地球アトリエ PR 動画 12 分版

<https://youtu.be/evS1ufKz97A>

<参考資料：講座チラシ表>

豊子連講座 2020

= 千里文化センター「コラボ」公民連携事業 =



し ん ぐ う す す む

新宮 晋の 絵本の世界

世界的に活躍する造形作家で絵本作家でもある豊中市出身の新宮晋さん。
『いちご』『じんべえざめ』『じゃぐちをあけると』…その美しさと科学的な視点で
子どもたちを魅了する新宮さんの絵本の世界について、水や風などで動く彫刻、三
田市に構想中の芸術・文化施設「地球アトリエ」などについて語っていただきます。
(豊中市内にある新宮さんの造形作品、著作などプロフィールは裏面に記載しています)

令和3年(2021年)2月4日(木)

14:00 ~ 16:00

会場：千里公民館 集会場(千里文化センター2階)

定員：70人、入場無料 <一時保育あります>

【お申込み・お問合せ】

1月7日(木)10:00～、電話申込み(先着順)

千里文化センター「コラボ」 TEL.06-6831-4133

(平日/10:00～17:00のみ、土・日曜・祝日は受付不可)

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止になる場合があります

主催：豊中子ども文庫連絡会・千里文化センター「コラボ」 協力：豊中市立図書館

<参考資料：講座チラシ 裏>

☆新宮 晋さんプロフィール ☆

1937年大阪府豊中市に生まれる。東京芸術大学絵画科を卒業後、ローマ国立美術学校で学ぶ。風や水など自然エネルギーで動く立体作品を数多く制作、世界各地に設置している。『いちご』『くも』『旅する蝶』（文化出版局）などの絵本を出版するかたわら、オリジナルの舞台も手掛ける。地球上6ヶ所の自然の風景の中に彫刻を設置し各地の人々と交流をはかる「ウインドキャラバン」を企画、開催。その活動により第43回毎日芸術賞特別賞受賞。2002年紫綬褒章、2010年旭日小綬章受賞。2014年兵庫県立有馬富士公園内に風で動く彫刻13点を常設する「新宮 晋 風のミュージアム」をオープン。野外パフォーマンスも行っている。

☆豊中市内にある新宮晋さんの造形作品 ☆

「森のささやき」



千里体育館

「白い雲」



野畑図書館

「宇宙の花」



柴原駅前広場

「翼にのって」



庄内体育館

「風と光」



府立豊中高校

☆新宮晋さんの絵本 ☆

下記のほかにもたくさんあります



『いちご』文化出版局



『じんべえざめ』文化出版局



『じゃぐちをあけると』福音館書店



『ふわふわさんぼ』福音館書店



『旅する蝶』文化出版局

【一時保育】1月21日（木）までに電話で申込み

千里文化センター「コラポ」 TEL 06-6831-4133

- ☆ 一時保育の対象年齢は、1歳以上で保育料お一人200円必要です。当日受付にて集めます。
- ☆ 受付などに時間がかかりますので、講演会の開始10分前までにお越し下さい。
- ☆ おむつ・着替えなどは、名前を書いた袋に入れて持たせて下さい。
- ☆ 飲み物が必要なお子さんは、各自お茶をご用意下さい。おやつは持たせないで下さい。
- ☆ 発熱・発疹などがある場合はお預かりできない事もあります。
- ☆ キャンセルされる場合は、必ずご連絡下さい。